

富士と湖の 自然をみつめて

Nature in and around Mount Fuji



河口湖フィールドセンター周辺の自然 ～今年は気候がヘンです～

①胎内神社に3月にウサギコウモリが

3月28日の朝、何か予感がして胎内神社のシャッターを開けて天井を見ましたら、ウサギコウモリが1頭ぶら下がって寝ていました(耳を内側に隠しているの寝ていることがわかる)。その後、4月1日まで同じ場所で見られましたが、2日には違う場所にぶら下がっていましたので、ピンクのマーカで背中に印をつけました(写真)。その翌日から神社の天井では見られなくなりましたが、4月下旬まで神社の畳に落ちている糞の数が増えていたことから、ずっと胎内樹型を利用しているのではないかと思います。例年7月頃から9月頃の夏だけ1頭来ていたウサギコウモリが、3月末から見られたのは初めてで、絶滅危惧Ⅱ類のコウモリの貴重な生活場所(越冬した可能性も)であることを示してくれました。



②ビオトープの池に4月にヤマアカガエルの卵塊が



河口湖フィールドセンターのビオトープの池(通称、山下公園の池)には、毎年3種類のカエルが産卵に来ますが、最初にやってくるのがヤマアカガエルです。例年は3月の初めから下旬で産卵は終わるのですが、今年は産卵の時期が長くなり4月の9日まで卵塊が確認されました。写真は防水型のコンパクトデジカメのテストで水中に入れて撮影したのですが、ゼリー状の球の中に丸い卵がはっきり見え、水面の上の様子からブドウの房状につながっていることがわかります。ヒモ状の長い卵塊はヒキガエル、木の上の泡で包まれた卵塊はモリアオガエルで、これから6月にかけて産卵に訪れると思いますが、今年の天候不順がどう影響するのでしょうか?

③富士桜の花に雪が

8年ほど前には4月5日に50cm近い大雪が降ったことがありましたが、今年は4月16日が一日中小雪、翌17日朝には15cm位の積雪がありました。その結果、4月14日から咲き始めたフジザクラにも雪が積もるとい、めったに見られない光景が見られました。湖畔のソメイヨシノの花に雪が積もるのも珍しく新聞でも紹介されましたが、フジザクラの花に雪が積もるのは更に珍しいと思います。寒暖の差が激しい今年の天候不順を象徴するような光景でした。



大池公園ビオトープのアシ刈り

河口湖畔の4ヶ所のビオトープは、生活館・美術館と八木崎公園・大池公園の管理の方々にお世話して頂き、その大部分を維持していただいています。しかし、美術館と大池公園ビオトープの池は、例年2～3月に自然共生研究室でアシ刈りを行ってきました。今年は天候不順と年度末・年度初めの諸行事が重なり、4月20日に宮下泰典氏と今年から常勤研究員となった西教生(にし・のりお)氏と渡辺の3名で大池公園のアシ刈りを実施することが出来ました。



ここ大池公園ビオトープでは、昨年6月には、ゲンジボタルが1日最大15頭、7日間で56頭の成虫が確認されていますが、アシが水をきれいにする力を持っていて、大池公園ビオトープにいろいろな生物がすめる役割を果たしていると考えられています。また、今回も上の池に1個、下の池に3個のオオヨシキリの古い巣が見つかり、昨年にも利用していたことが分かりました。水草のかたまりに

は貝類の卵が、水辺にはヒキガエルの卵塊が見つかりました。

すでにアシの新芽が伸び始めていましたので、今年も例年と同じように夏には2m近くまで成長し、鳥やトンボなどの水生昆虫のすみかとして利用されると期待されます。

ショート・ニュース

- 昨年度非常勤研究員として、フィールドセンター周辺の鳥類の調査をしてもらっていた西教生(にし・のりお)氏が、今年から自然共生研究室の常勤の研究員となりました。
- 4月25日、21時54分からTBS で、自然共生研究室の富士山麓での絶滅危惧チョウ類の保全のための調査研究の様子が紹介されました。
- 3月17日と4月20日NHK BS-hi で放映された「新日本風土記(富士山)」が、5月5日にNHK総合 で再放送されます。放送開始17分後から約4分間にわたり船津胎内樹型が紹介される予定です。

町の文化財紹介

いにしえ こ みち

富士河口湖古の小径

河口湖ステラシアター
多くの人に支えられ十五年前編

〈はじめに〉

河口湖ステラシアターは、平成七年五月にオープンし、昨年平成二十一年度シーズンでちょうど開館十五を迎えた。半円形すり鉢形で客席の傾斜角度が三十度あり、最大三千名を収容できる客席を持つ公共ホールは、形状が特殊で、規模的にも公共団体が運営するホールとしては、全国的に見てもとても大きい。恐らく他には類を見ないであろう。音響的に富士山麓において生音で十分表現できる施設を目指し、約二千年前に造られたギリシヤにある野外音楽堂を模して設計された。将来構想として可動式屋根のアイデアはあったが、オープンの時には舞台上に奥行き約七メートルの屋根しがなく、しかも客席には屋根がまったくない劇場構造であり、平成十九年六月に客席を覆う可動式屋根が完成するまでには、約十三年間をかけて実った夢でもあった。これまで十五年という短い歴史ではあるが、構想段階からこれまでを踏まえると通常の施設ではないだろう、様々な方の思い、情熱やたくさんの方の苦勞が折り重なって現在に至っている。そのあたりを紐解いていきたい。

〈ステラシアターのはじまり〉

平成元年から当町は「五感文化構想」を掲げ、人の基本的な感覚である、見る(視覚)・聞く(聴覚)・触る(触覚)・味わう(味覚)・香りを楽しむ(臭覚)を刺激しながら、特に女性をターゲットに次なる観光マーケットを創造し、文化が経済をリードする時代を念頭に豊富な自然を活かし文化と観光を融合させていく町づくりを進めていこうということで、各事業が

進められていった。その考え方の根本は、当時は平成二十二年(二〇一〇)ころから少子高齢化の影響で、日本国内の人口が減っていく予測がなされていた。その中で町に魅力をつけ、観光を中心とした地域産業を育成する中で、雇用を増やし、町の人口を少しずつ増やしていかなければ、いずれ来るであろう、人口減少が影響した厳しい時代を前に、町自体の体力をつけておかなければならないという危機感からであった。当時の旧河口湖町の人口が一万六千人のころの話である。県外の同様の施設を町内有識者と視察するなどし、都会では出来ない唯一の施設を作ろうと試行錯誤しながらステラシアターは、「聴く」分野を担う位置づけで事業化していった。

ホールの建設は平成三年ごろから具体的な



構想が浮かび上がり、当初は約一万人の署名と共に他町村にもある文化ホールの建設の要望が住民から上げられたが、建設資金を国など外部から捻出していくことを模索していく中で、現在ステラシアターがある河口湖総合公園が建設省所管の都市公園の認定を受けていたことから、野外音楽堂の建設であれば、当時の建設省から国庫補助金として事業費が引き出せる見込みがあった。その結果、概ね四分の三が国などからの外部資金を活用して建設された。当時は通常の文化ホールを建設する場合は、一〇〇%自己資金で建設しなければならぬため、当町の場合は、非常に有利というか、他にはこのようなチャンスがないであろう絶妙なタイミングで建設された。当時は他の自治体からも建設方法や将来のランニングコストの軽減の仕組みなど問合せもたくさんあり、そんな経緯で事業がスタートしていた。

平成五年度末から工事ははじまり、平成六年四月から工事の状況をみながら、いよいよ運営の前身を作っていく「野外音楽堂準備室」が設置された。さあ、この巨大な施設をどうやって運営していこうかと毎日思い馳せていたが、どこから入っていったら良いのか、まだ分からなかった時期でもあり、運営資料も、しっかり提示できるものは少なかったように思う。そこからのスタートではあった。

住民は三千名収容で巨大なことから、野外であることから雨天時のリスクがあることを踏まえた不安をかかえていた。いずれの課題も少しずつ住民の皆さんとの対話をベースに腰を据えていけば、必ず理解は広がるだろうと深く思いを持って取り組んでいた。

平成六年六月にかねてからアドバイスをいただいていた音楽プロデューサー金子洋明氏から運営打合せ合宿の話提案され、都内の



ホールを準備室から立ち上げた公共ホール館長、劇場設計者、音楽事務所制作実務スタッフ、そしてホールスタッフというホールを動かしていく基本スタッフだけで開催した。このプロジェクト会議で、まだ国内には事例のない施設をどうやって世の中に送り出していくか、真剣な議論を交わしていった。二泊三日の集中会議は明け方にも及び、工事現場で風の音、日没の時間や雰囲気、そして富士山の様子など、具体的な施設の運営方針や統計に基づく打合せをこなし、併せて運営の基礎資料も作っていった。この運営合宿をオープンまでに三、四回開催し将来のイメージを育み、その後の運営の中味を作る上で最も大きな役割と具体的な機能を発揮していった。

平成六年十月頃にその後も大きな柱となる出会いがあった。ドイツのベルリン郊外で毎年初夏に行なわれているヴァルトビューネ音楽祭のビデオを関係者で初めて見る機会を得た。平成五年小澤征爾さんが指揮をされたコンサートは、ステラシアターと同じ野外で、しかも溢れんばかりの観客。特に驚いたのは、クラシック音楽を老若男女が普段着で飲食しながら心からくつろいで楽しむ様子が画面から伝わってきた。「こういうのが国内にあるといいよな」と深く思いを心に刻んだ。忘れない日であり、その先に続く、音楽祭への開催へとつながっていく衝撃的な出会いでもあった。また同年十二月には、久武章宏氏、英子氏ご夫妻から音楽を通じてより良い子どもが、この地で育つように願いが込められ、河口湖円形ホールを町に寄贈していただきステラシアターの建設と同時に文化の礎が着実に育まれていった。

【次号(中編)に続く】

(特別寄稿 河口湖ステラシアター

野沢藤司)

富士河口湖町教育センター

輝かしい未来の町づくりは、人づくりからとされています。町の将来を託せる人づくりのためには、乳幼児期、児童期、青年期と、それぞれの時期にあった教育が必要です。そのためには、教育行政と教育現場、保護者、地域が一体となり、より具体的な施策を展開することが必要となります。その中核となるのが、教育センターです。

本町の教育の振興及び児童・生徒の健全育成を図るため、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第30条の規定に基づき、平成17年4月1日に開設されました。

また、開設当初からの「教育センターだより」「子ども生活アンケート調査結果」が、富士河口湖町のホームページに掲載されています。是非、ご覧下さい。

平成22年度教育センター事業内容

相談業務 「お子さんに関する悩み相談受け付けます。」

- 時間帯 月曜日～金曜日 午前9:00～午後4:00
- 場所 富士河口湖町交流センター内
(旧河口湖町役場2階)教育センター
- 対象 お父さん・お母さん・子どもさん・おじいさん
おばあさん・先生方
- 連絡先 富士河口湖町教育センター 0555-83-3022
E-mail ed-center@kawaguchiko.ne.jp

窓口相談、電話相談、メールでもかまいません。お気軽にご相談下さい。解決の糸口を一緒に考えましょう。(相談内容・相談者の秘密は堅く守られます。)

研修 「先生方を対象にした学習会・
様々な講座等を実施します。」

- 郷土学習会「新転入・新採用・町単職員を対象とした地域を知るための学習会です。」
- 町単・期間採用職員研修会「5月6月に3回実施します。」
- カウンセリング実習「スクールカウンセラー等、講師の先生を交えての学習会です。」
- 学級経営スキルアップ講座「外国語活動・理科実験・学級集団作り等の学習会です。」
- 特別支援連絡会「各学校の特別支援コーディネーターの連携と研修を行います。」

夏季休業中を中心とし、先生方の日々の指導に活かすことができるような講座を開講していきます。

体験活動 「地域を活かした子ども達の
体験活動を実施します。」

- <例> ○5年生;川の学習(流れる水の働き)
- 3年生;木工の学習(切って切ってトントントン)
- 学校間交流による体験活動

教育センターでは、学習指導に役立つ体験プログラムの提案をしています。

その他

- 子ども生活アンケート調査の実施
「小3・小5・中2を対象に6月に実施予定」
※結果が集計でき次第、町のホームページに掲載します。
- 幼保・小・中・高・大との連携
- 不審者対策「各学校の下校時刻に合わせて、青色パトカーの巡回を実施します。」
- 教育講演会「町P・郡Pとの共催で実施します。今年度は2学期に予定しています。」
- 研究協議会「各学校より1名の協力を得て、研修等の企画運営を実施します。」
- 運営協議会「町校長会・教頭会・PTA役員等の代表者により、子ども達の健全育成に向けて、考えていきます。」

子ども達の健全育成に向けて、様々な取り組みを実施していきます。



The Kawaguchiko Stellar Theater. The May issue.
STELLAR THEATER NEWS

河口湖ステラシアター通信 5月号

日頃の感謝を込めて!! 町民限定の特別先行予約を行います。
 河口湖ステラシアターは16年目のシーズンを迎えます。これからも、よろしくお願ひします。

☆町民特別先行予約☆

森山良子 野外協奏曲♪「もしかして……」



日 時:平成22年9月4日(土)
 開場)午後4時
 開演)午後5時
 会 場:河口湖ステラシアター
 料 金:指定席 6,000円

ゲスト:清水ミチコ・藤澤ノリマサ



※3歳以下のお子様のご入場はご遠慮願ひます。

6月12日(土)一般発売
 午前10時より全国一斉発売

- 先行受付日時 6月7日(月)《電話予約のみ》午前10時～午後5時
- 受付電話番号 0555- 72- 5588 河口湖ステラシアターチケットセンター
- チケット受取方法 《来館の場合》6月16日(水)から6月26日(土)までにステラシアターへお越し下さい。尚、火曜日は休館日となります。
 《郵送の場合》チケット代金の請求書をお届けします。入金が確認できましたら、チケットをお送りいたします。尚、書留郵送料520円と振込手数料はお客様のご負担となります。

☆町民特別先行予約☆

STARDUST REVUE in ステラシアター

日 時:平成22年7月24日(土)
 開場)午後4時 開演)午後5時
 会 場:河口湖ステラシアター
 料 金:指定席 6,500円

5月29日(土)一般発売
 午前10時より全国一斉発売



※未就学児の入場は保護者膝上限り無料。但し、座席が必要な場合は有料となります。尚、観覧可能な母子室はございませんので、予めご了承下さい。

- 先行受付日時 5月24日(月)《電話予約のみ》午前10時～午後5時
- 受付電話番号 0555- 72- 5588 河口湖ステラシアターチケットセンター
- チケット受取方法 《来館の場合》6月2日(水)から6月12日(木)までにステラシアターへお越し下さい。尚、火曜日は休館日となります。
 《郵送の場合》チケット代金の請求書をお届けします。入金が確認できましたら、チケットをお送りいたします。尚、書留郵送料520円と振込手数料はお客様のご負担となります。

☆町民特別先行予約☆

富士山河口湖音楽祭2010全公演

5月29日(土)一般発売
 午前10時より全国一斉発売

《河口湖ステラシアター公演》

月	日	開 演	コンサート名	区 分	一般料金
8	18 水	午後2時	吹奏楽高校生国内トップチームによる フレンドシップコンサート	全席自由 ※1	一般1,500円 高校生以下600円
8	19 木	午後4時	1コインコンサート 佐渡裕お話つき スーパーキッズオーケストラコンサート	全席自由 ※1	一般500円 高校生以下100円
8	21 土	午後5時	佐渡裕指揮 シエナ・ウィンド・オーケストラ コンサート	指定席 ※2 自由席 ※2	指定席4,500円 自由席(一般)3,000円 自由席(高校生以下)1,500円

※8/21(土)「佐渡裕指揮シエナ・ウィンドオーケストラコンサート」の開場・開演時間は、変更となる場合がございます。